



**KANSAI
UNIVERSITY**

教職支援センター年報

2017

関西大学 教育推進部
教 職 支 援 セ ン タ ー

『教職支援センター年報 2017』目次

投稿原稿

感動は不可欠だが危険でもある

－小・中学校における特別活動の指導法をめぐる一考察－

兵庫大学現代ビジネス学部准教授 岡本 洋之 ……	1
土5限の国語教室－国語科教育法（三）（四） 非常勤講師 榊井 英人 ……	10
高等学校・公民科「倫理」における「心に響く教材」の発見	
－儒教理解のための生活感情を組み入れた資料開発－ 非常勤講師 浜田 直也 ……	15
教員としての資質・能力を高める授業実践 非常勤講師 西出 博行 ……	21

1. 教員の養成の目標

関西大学教職支援センターの基本理念 ……	38
----------------------	----

2. 教員の養成に係る組織

教員の養成に係る組織 ……	39
教職支援センター規程 ……	40

3. 教員の養成に係る授業科目

教職に関する専門教育科目および科目担任者一覧 ……	42
---------------------------	----

4. 教員免許状の取得の状況

各学部・大学院で取得できる教員免許状の種類・免許教科 ……	47
介護等体験 参加者数 ……	49
中学校・高等学校教育実習生数 ……	50
教員免許状取得状況・免許取得者数一覧（学部・大学院） ……	51
教員免許取得までの諸手続き ……	58

5. 教員への就職の状況

教員採用試験合格者状況・合格者数 ……	59
教員採用試験「大学推薦」の応募状況・合否結果 ……	61

6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組

介護等体験事前指導について ……	62
2年次生対象「教育実習受講希望者ガイダンス」について ……	63
3年次生対象「教育実習ガイダンス」について ……	65
教員養成フォーラムについて ……	67
教員採用試験合格者との情報交換会について ……	69
教職専門科目担当者研究会について ……	71
教員採用試験合格者壮行会について ……	72
教員採用試験に向けて～支援制度を積極的に活用しよう～ ……	73
教員採用試験 受験案内一覧 ……	74

教職支援センター 利用状況	76
教職関係ガイダンス日程	77
 7. その他	
教員免許状更新講習一覧	78
関西大学教職支援センター年報投稿規程・執筆要領	79

高等学校・公民科「倫理」における「心に響く教材」の発見 —儒教理解のための生活感情を組み入れた資料開発—

関西大学非常勤講師 浜田 直也

はじめに

高等学校・公民科「倫理」には、青年期の人格形成と心理、古今東西の哲学・思想、宗教、生命倫理・環境問題・情報化社会の倫理的課題など多様な課題が取り込まれている。

このような、人間の社会活動全般にわたる多種多様な分野の課題に対する学習目的が、那邊にあるのかといえはやはり「生きる力」の育成にあると言わざるを得ない。

とりわけ、「倫理」は、哲学・宗教などの精神文化の学習のみならず、価値観が多様化してきている現代社会に生きる生徒たちにとって、課題解決の指針になるのではなかろうか。

本稿の主旨は、高等学校・公民科「倫理」において、中国の精神文化を数千年にわたって規定し、社会の倫理・道徳に影響を及ぼした儒教を、単なる知識ではなく社会で賢く生きる知恵にまで止揚させて、生徒たちに「生きる力」を育む学習作業の実践の試案である。

1 現代社会の家族問題と儒教思想

儒教を語るとき、この思想が東アジアの前近代社会の家族制度の思想のバックボーンであったことを見落としてはならない。なかでも、『論語』「学而篇」に、「孝悌ナル者ハ其レ仁ノ本タルカ」、とあり、「孝」、「悌」こそが最高の徳目である仁愛の根本と説かれている。

しかし、今、生徒たちが生きる現在の日本社会は、核家族を構成単位として成立している。それ故、親族・親子の間の垂直的な親愛の情を覚知することは難しくなっている。また今日の日本社会が抱える課題として、日々報道機関を通して伝えられる家族内の凶悪犯罪は、家族を土壌とする根源的な人間の絆を虚無化し憂鬱な世相を生んでいる。

「倫理」の教科書には、核家族の問題点について指摘されている。例えば、山川出版社『現代の倫理』には次のような記述がある。

現代社会の都市化にともなって、祖父母・親・子どもの三世代がいっしょに暮らす大家族が減少し、夫婦と未婚の子どもだけの核家族の割合が増えてきた。核家族化が進む中で、家族の結びつきが希薄になり、家族のはたす機能が縮小されつつある。要因には、個人の生活を大切にする現代人の生活スタイルがあげられるが、…中略…。私たちは、人と人がともに支えあって生きる基本的な共同体としての家族の役割を見直し、家族の絆の意味を考えることが重要になっている。

ところで、現代社会で頻繁に惹起している肉親、親子間の凶悪犯罪を想うとき、家族愛を再認識することは大切なのではなかろうか。ここに、孔子が説く「仁愛」を人道の根本とし、家族を社会の基礎集団とする儒教の倫理思想の見直しが求められるのである。

そこで、「倫理」の教科書で、孔子（前 551?-前 479）の「仁愛」（親子の愛情）を根底とする思想が、いかように説かれているのかを見てみることにする。例えば、山川出版社「現代の倫理」には、孔子の思想について次の様な記述がある。

孔子は、仁は家族の愛を土台にして育つと考え、「孝（親への愛）と悌（年長者や兄への愛）は仁のもとである」と説いている。子どもは家族から愛情を注がれて育ち、子どもは家族を心からしたう。親子や兄弟姉妹の愛の絆が、家族の一人ひとりを支え、人びとを愛する基盤になる。…。仁とは、このような家族に自然に生まれる親愛の情を、人生で出会う多くのにもおよぼし、人びとへの愛にまで高めた普遍的な人間愛の理想である。

要旨は、孔子は、肉親に生まれる自然な親愛の情を、社会の人間関係におし広めていくことによって、人道の根本である人に対するいたわりの心である「仁」が充ちた人情に篤い社会が完成すると説いたということである。つまり、現代人の空虚化しつつある家族の親愛と相互扶助の精神が披瀝されている。至極、当然な主張である。道理に適っていて、なんら異議を唱えるところがない。が、真理は認めるとしても、肝心なのはどうやって親が子への想いを子に伝え、子もまたそれに応えて親への感謝の気持ちを、具体的に表現するかである。いくら、授業で「孝」や「悌」を唱えても、これを生活心情の一端にむすびつけなくては生徒に「倫理」を理解させたことにはならないのではなかろうか（註1）。

2 柳開に纏わる逸事

孔子の仁愛（親愛の情）を社会の倫理秩序の柱とする思想が、中国の伝統社会でどのように評価されてきたのかを管見するために、具体例を求めて歴史を遡ってみることにする。

例えば、中国の北宋（960～1126 年）の柳開（政治家、字は仲塗、号は東郊野夫・補亡先生、947～1000 年）の肉親の親愛の情に纏わるエピソードを検証してみることにする。

柳開は、魏晋以来、文章の主流が修辞を主とした四六駢儷体になり内容が空疎になったので、その弊害を除いて、達意・真実を主とする古文（先秦・漢代の散文）に返そうとした古文復興の宋代における先駆者として知られている。古文復興は、唐の韓愈（768-824 年）にはじまる（『世界史 B』に記載）。

柳開の文集『河東先生集』巻一、「名系」に、「開、始メ韓愈氏ヲ慕イテ、文章ヲ為シテ、名ヲ肩愈ト為ス」とある。つまり、彼は、韓愈を継承するという意気込みから「肩愈」（韓愈を継ぐ）と名乗ったというのである。

先行研究では、彼の政治的・文化的働きを取り上げ、その家庭環境について分析したものは少なかった。かろうじて、清の錢大昕（1728-1804 年）が、『潜研堂文集』巻二十六、「重刻河東先生集序」において、柳開の父と叔父の教育に対する真摯な訓戒を指摘し、「生ノ天才ト雖ドモ、…、亦力ヲ庭訓ニ得ルニ由ルコト、深キナリ。」と賞賛している。つまり、錢大昕は、柳家の“庭訓”（ていきん：家庭教育）を高く評価しているのである。

碩学錢大昕が、目に留めた柳開の一族の家族愛を彼の文集である『河東先生集』巻十四、

「宋故河東郡柳公墓誌銘」（以後「柳公墓誌銘」）の訳文で紹介することにする（註2）。

柳開の父の異母兄弟に、柳承遠がいる。この叔父は、賈夫人を母としている。彼は、耳が聞こえない「障がい」をもっていた。私の祖父の名前は柳舜郷という。唐の衰退から遁れて、市井に身を隠した。叔父が五歳から七歳の就学時に至って、李先生について読み書き習字を学んだ。しかし、叔父は、既に耳が聞こえなくなっていて、他の児童に較べて倍ほどの努力を費やしても足りないぐらいであった。祖父は、李先生に、月々手厚い報酬を払い懇ろに、「この子（承遠）が「障がい」をもっている、先生は倦むことなく教えていただきたい」、と請願した。しかし、叔父は、頑なな幼児性から、教えを聞き入れようとしなかった。祖父は、朝早く起きて手を差し伸べて叔父を起こし、手を引いて李先生のもとに連れて行った。…中略…。祖父は「私が、この子の病気を認識していない筈もない。この子の耳は廢人であったとしても、精神は廢人ではない」と詫びた。叔父は成長して、書籍に通じ聡明で信義に篤く、兄弟に対して父を敬うように仕えた。叔父は族産の緡錢千万貫を管理し、それに利子と元金を算用させて金貸しを営んだ。彼は、生涯欺くことがなかった。兄弟たちは彼を信頼して疑わなかった。尊父の志を成し遂げたのは、孝行の極まりである。

この柳開の家に纏わるエピソードの前半部は、祖父の柳舜郷が、叔父の柳承遠が聾の「障がい」をもって生まれたことを不憫に思い、慈しみ心血を注いで養育したことである。

また後半部は、柳承遠もこれに応じて聡明で人望がある人物に育ち、彼は兄弟からも信頼されこれに対して忠実に仕え、家産運用にも長けていたということになる。

後日談であるが、柳承遠は、柳家が代々信奉していた仏教に自らも篤く皈依していて、寺院に湯屋（湯治;修行施設）を喜捨する社会貢献の一助をなしたという（註3）。

ところで、先述したように、柳開の歴史的評価としては古文復興家の儒者として知られている。しかし、柳の一族は、仏教への信仰心が篤く、思想を異にする儒教と密接に関係する古文とは疎遠であった筈である。そこで、柳開が、古文と出会った経緯を考察してみることにする。柳開が古文と出会う発端は、宋の洪邁（1123-1202年）『容齋続筆』巻九に記されていて、それによると、柳開は承遠の妻趙氏の近親者と思われる某儒者から韓愈の文章を授けられたことによるという（註4）。

つまり、柳開が古文復興運動にむかったのはじまりは、柳承遠が深く拘っていたのである。また柳開は、祖父柳舜郷の叔父承遠への家庭教育（庭訓）での仁愛の実践を、「孝」と讃えている。おそらく、柳開は、古文は柳家の庭訓を機縁とした天からの賜物と理解していたのである。

思うに、錢大昕は、祖父柳舜郷の叔父柳承遠への心温まる献身的な行為を、儒教が説く仁愛の実践である「孝」「悌」の具体化と考え、祖父を仁愛の偉人と考えたのであろう。

儒教の「孝」や「仁」「悌」の概念は、教科書で漠然と教えるのではなく、今もなお自分の周辺にいくらかもあるもの（障がい者問題）に纏わるエピソードを導入で紹介することによって、生活感情を梃にして悟らせることが大切なのではなかろうか。

3 孟子の「性善説」の自動改札機での実践

つぎに、孔子の「仁」の思想を継承した孟子（前 372?-前 289?）の「性善説」について、教科書の記述を紹介してみることにする。第一学習社『倫理』には次のようにある。

孟子は、人間は生まれつき善であり、仁や義のめばえがもともとそなわっているとした（性善説）。たとえば、井戸に落ちそうな幼児を見ると、誰でも思わずその子を助けたいとするあわれみの心（惻隱の心）を起こす。これは仁の徳のめばえである。

孟子の「性善説」（『孟子』「勝文公上」）に対する解説は他の教科書でも大同小異の記述になっている。多くの教科書で「性善説」を記す際には、幼児が井戸に落ちることをくいとめる逸話が引用されている。しかし、この逸話は時代がかっていてリアリティ（現実味）に欠けるかもしれない。近年の子どものなかには井戸の存在を知らない者もいるであろう。強いて言えば、「視覚障害者が駅のホームから線路に落ちそうになっていたらどうするか」と問う方が、生徒にとって人間の自然な愛情にもとづく真心を理解する設定になるのではなかろうか。

しかし、現代頻発している痛ましい幼児虐待の現実からすると、説得力に限界があるのではなかろうか。さらに自らの存在意義が自覚ではないことからくる衝動殺人、肉親間の金銭をめぐる悲惨な傷害事件など、「性善説」を素直に受け入れる精神的下地は揺らいでいるのではなかろうか（註5）。

そこで、「倫理」の授業のなかで、現代の倫理にあっても「性善説」が活かされている例証をあげることができれば、生徒たちの関心は深まり、古典思想を今に蘇らせることができるのではなかろうか。

『毎日新聞』（2017年10月5日付・朝刊）に掲載された「オムロン「自動改札機」－性善説に立ち開発－」には、「性善説」を理念とした自動改札機の開発談が掲載されている。その記事は次のようなものである。少し長くなるが引用してみる。

1960年代に入り、高度経済成長に伴う都市への人口集中は主要ターミナル駅の混雑をもたらした。朝のラッシュ時はとりわけ深刻で、近鉄鶴橋駅では1分間に最大80人が国鉄（JR）との連絡改札口に殺到していたという。改札で駅員が定期券や切符を点検し通す体制は、増員もままならない中で限界に近かった。近鉄は抜本的な対策のため、改札自動化を決意。64年から阪大の電子工学科、オムロンと、それぞれ共同研究を始めた。挑戦したのは、朝の乗降客では利用が多い定期券の改札機の開発だった。…一方、オムロンにも研究開始早々に、欠くことのできない機能の搭載を、近鉄から強く求められた。「当初は安易に考えていたかもしれません」。開発チームのメンバーだった田中寿雄さん（80）は振り返る。

戦前の地下鉄でも既に、扉代わりに3本の腕木を押して通過する改札機は存在した。しかし、常に通路が閉じた形の装置は処理能力より不正防止が優先されていた。通過には1分間に20人が限界だった。正確で、しかも人をスムーズに通過させる。成り立ちがたい二つの課題が突きつけられた。メンバーはターミナル駅に通り詰め、朝の

改札の様子を観察した。浮かび上がったのは、不正の有無をチェックしながら効率よく通過させていく駅員の姿であった。そこから導き出された改札機の開発思想は、正しいと判断した場合のみに扉を開くのではなく、扉はいつも開き、イレギュラーな通過の場合のみ閉じる考え方。ノーマルクローズ型からノーマルオープン型への転換だった。「いわば乗降客を信頼する『性善説』に立った開発でした」田中さんとは話す。この思想に基づき、共同開発を進めた。…。目標だった1分当たりの最大80人が通過できるまでに能力も高まった。

人間の善性を信じる「性善説」に基づく開発が、自動改札機を生んだというのである。この人間の善性を信じる思想は、近代経済学のアダム＝スミスの「神の手」に基づく、自由経済の市場経済の理論にも一脈通じているかもしれない。

人間社会の底流に流れる倫理観に、古今東西の分け隔てがある筈がない。現代にも息づく思想が、未来を構築する機械の開発理念を引き出したことは興味いエピソードである。

このエピソードに限らず、新聞には学習単元に生活感情を引き込んで豊かに膨らませる題材・資料が多くあるのではなかろうか。

まとめ 今、「倫理」に求められる「心が動く教材」

未来の学校教育の課題は、知識を教えるだけの学力偏重の指導だけではなく、生活感情に訴えるような身近に存在する話題を取り入れ人情の機微を推察できる人間づくりを目標とすべきではなかろうか。この教育活動は、習得した知識を身に備わった賢さである智慧に高めることを目的とする、「生きる力」を育む教育実践につながる。とりわけ、生徒たちが、公民科に期待し学習意義を感じているところはここにあるのではなかろうか。

『毎日新聞』「みんなの広場」に掲載された中学生の一文につぎのような記事がある。

竹尾 葉 14（歳）「心に響く映像を使った授業」

…。先日は映画「あん」を見た。「あん」にはハンセン病のおばあさんが出てくる。そのおばあさんは、病気のせいで偏見をもたれ、せつかくなりたかった仕事についたのにクビになってしまったのだ。私は映画を見ていて切ない気持ちになった。その後の授業で日本国憲法では職業を選択する自由が認められていることを習った。…。映画を見ずに憲法を教わっていたとしたら「へい、そうなんだ」ぐらいにしか思わなかったのではないだろうか。今は違う。…

「倫理」の授業で、生徒たちに「生きる力」となる知識を修得させるためには「心が動く・心に響く」ような教材を提供することが求められてくるのではなかろうか（註6）。

端的に言って、「倫理」の学習活動では、文学歴史分野、視聴覚分野、マスメディア分野などの多様な題材を取り入れて具体的にイメージ化することで豊かな内容の授業が展開されるべきである。また授業づくりでは、知識を知恵に進化させるため、「生活感情」につながる題材を披瀝し、生徒に豊かな人間性を育ませるスキルが必要不可欠であると思われる。

注記

註1 孔子の思想の核心である「孝」と「悌」について、山川出版社『倫理用語集』には次のような解説が下されている。

「孝〈孔子〉 親への親愛の心。…・親は子を慈しみ、子は親を愛することによって、親子のあいだに親愛の情が自然に育まれる。孔子は、「孝悌なるものは、それ仁仁の本なるか」(『論語』)と説き、親への孝と兄や年長者への恭順の心である悌という、肉親に生まれる自然な親愛の情を、社会の人間関係におし広めていくことによって仁(他者を愛する心)が完成するとした」。

しかし、孔子が、家族を社会構成の基礎単位と認識して、家族内の敬愛と長幼の親睦の心である「孝」と「悌」を、社会倫理・道德の根本とみる思想は、その中国の歴史的背景を認識してこそ理解できるところがあるのではなかろうか。

註2 『河東先生集』巻十四、「宋故河東郡柳公墓誌銘」に次のようにある。

「我列考御史有異母季弟、諱承遠、出于賈夫人。耳病無所聞。開王父諱舜鄉、遯唐衰微、默據閭港。季父五七歳、即李先生教誦書画字。季父既難聴、比常兄訓倍力不尚。開王父月厚金償先生曰、禱曰…「児雖此、願先生無倦誨」 季父稚如石、授莫入焉。開王父每晨促起、提父手、扶之抵先生所。…中略…。開王父謝曰、「吾寧不見是子病乎。耳雖為廢人、心其不為廢人也。…」。…中略…。及長善書、聰慧敦信、事諸兄如父、主緡錢千萬、用子本為質。無欺終身。諸兄倚之不疑。克成我王父之志、孝矣」。

なお、祖父の柳舜郷は、宋の太祖(趙匡義)の乾徳(963～968年)年間の官吏の不正を糾弾する役職の監察御史になっている。

註3 『河東先生集』巻二「東郊野夫傳」に、次のようにある。

「野夫曰、吾祖多釋氏、于以不迨韓也。…諸父有于故里浮屠復浴室者」とある。なお文中の諸父は、宋の費袞の『梁谿漫志』巻五に、「伯、叔父謂之諸父」とあり、叔父を指し具体的には柳承遠のことである。

註4 宋の洪邁『容齋続筆』巻九に次のようにある。

「予読張景集中柳開行狀云…「公少誦經籍、天水趙生老儒也。持韓愈文僅百篇。授公曰、「質而不麗、意若難曉、子詳之、何如。」 公一覽不能捨。嘆曰、「唐有斯文哉」。

また、南宋の王稱(生没不詳)の『東都事略』巻三十八にも、「自五代以来、学者少尚義理。有趙生者、得韓文数十篇、未達。乃携以示開」とある。

註5 『孟子』「尽心篇」で、人間が生まれながらに備えている正しい心の働きを開花させるためには、善き道德性を育てるためには修養が必要であると指摘している。つまり、人間の善性を芽生えさせる育むためには教育の役割が必要であると説いている。

註6 岡田朋夏 15(歳)「心が動く授業の方がいい」(『毎日新聞』2014年)にも同様な話がある。「普通、授業というと先生が黒板に書いたものをノートに写す。教科書を開いて先生の話聞く。そういうものだろう。しかし私の学校の授業では映画を見る、漫画を読むなどの機会が多い。黒板をただ写すだけの授業よりも、映画や漫画で自分の心が動いたことを記す授業の方がいいと思う」。

補注 柳開の一族に関するテキストとしては、四部叢刊所収宋鈔本と何義門校訂・清乾隆刊本『河東先生集』(京大人文研蔵)を用いた。